

乾しいたけ栽培技術情報 H22-1

[概況と見通し]

今年も春子のシーズンとなりましたが、県内では寒い日が続いており、芽切りや、切った芽の生長が遅れています。1ヶ月予報でも、来週までは気温が低いと予想されています。一方、既に発生を終盤を迎えた南・西日本では、高温や雨の影響で ヒラキ や アレ葉 が多く、市況も全般に低調でしたが、どんこ や こうこ の並~品には、良い値が付いています。今後もこの傾向は続く予想されており、「岩手らしいきのこ」を出せば、高値も期待できます。市場（お客さん）は岩手産を待っています！！

[今後の作業ポイント]

(1) ホダ場の管理

- ・ ビニール系資材によるホダ木の被覆は低温対策に有効ですが、直射日光を受けると被覆内の温度が上がり過ぎることがあります。特にマツ林等の明るいホダ場では、こまめに管理をしてください。
- ・ 寒気が抜けた後、急に気温が上がる可能性がありますので、散水施設の点検、試運転や、遮光系被覆資材の準備をしてください。
- ・ 気温の変わり目には風が強まることが多いようです。風による乾燥を防ぐために、防風柵の点検や張り増しをしてください。

(2) 植菌後のホダ木の管理（仮伏せ）

- ・ この時期の管理が後の収量に大きく影響します。低温や乾燥による活着の遅れを防ぐには、資材での被覆が有効です。
- ・ 内側は段ボールや不織布で保温、保湿を、外側はブルーシート（ハウス）やシルバー系資材（林内）で遮光、断熱を行うと良いでしょう。被覆の上に段ボールを載せると断熱効果が高まり、温度の上がり過ぎを防げます。また、木口側に麻袋、飼料袋等を留め付けると、被覆内の保湿やホダ木の芯水抜きに効果があるようです。

本報の作成にあたり、以下の方々にご教示いただきました。感謝申し上げます。

高屋敷幸雄氏（洋野町）、菊池英雄氏（遠野市）、琴畑熊吉氏（遠野市）ほか

（担当：成松 019-697-1337）